

川崎市 障害のある方の生活ニーズ調査

報告書

令和2年3月

川崎市

第1章 調査の概要

1 調査の目的	3
2 調査の対象と調査方法	3
3 調査時期	3
4 回収状況	4
5 報告書の見方	5
6 障害のある方の調査結果のまとめ	6
7 事業者調査結果のまとめ	10

第2章 障害のある方の調査結果

1 調査票の記入者	13
2 基本属性	14
3 障害について	16
4 現在の生活について	20
5 今後の暮らし方について	27
6 保育・療育等について	63
7 医療機関・健診等について	65
8 日中活動の場・収入・就労について	71
9 相談や福祉の情報について	98
10 外出やバリアフリーについて	145
11 権利擁護について	158
12 福祉サービスについて	164
13 災害対策について	195
14 ピアサポート活動について	204
15 運動・スポーツについて	219

第3章 事業者調査結果

1 事業所の概要（令和元年11月1日現在）	241
2 事業展開における現状と課題	244
3 障害福祉サービスの実施状況	250
4 職員について	255
5 災害時の対応について	269

資 料

1	障害者向け調査項目一覧.....	273
2	事業者向け調査項目一覧.....	275
3	在宅障害者共通調査票.....	277
4	在宅（特別支援・療育）調査票.....	293
5	施設入所者、グループホーム入居者共通調査票.....	309
6	居宅系事業者調査票.....	325
7	グループホーム事業者調査票.....	328
8	施設系事業者調査票.....	331
9	相談支援事業者調査票.....	334

第1章

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、障害者基本法に基づく障害者計画の改定と、障害者総合支援法に基づく第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の策定を令和2年度に行うにあたり、障害のある方々の生活ニーズに基づいた計画を策定する基礎資料とするために実施しました。

2 調査の対象と調査方法

調査の種類	対象者	調査方法
①身体障害児・者	身体障害者手帳所持者から無作為抽出	郵送による配付・回収
②知的障害児・者	知的障害の判定を受けた方から無作為抽出	郵送による配付・回収
③精神障害者	精神障害者保健福祉手帳所持者から無作為抽出	郵送による配付・回収
④自立支援医療（精神） 受給者	自立支援医療（精神通院）受給者から無作為抽出	郵送による配付・回収
⑤特定医療費（指定難病） 医療受給者	特定医療費（指定難病）医療受給者から無作為抽出	郵送による配付・回収
⑥高次脳機能障害者	専門機関利用者から無作為抽出	直接配付・回収
⑦発達障害児・者	専門機関利用者・障害者団体関係者から無作為抽出	直接配付・回収
⑧特別支援学校通学者	特別支援学校等通学者から無作為抽出	直接配付・回収
⑨療育センター利用者	地域療育センター利用者から無作為抽出	直接配付・回収
⑩施設入所者	施設入所者から無作為抽出	郵送による配付・回収
⑪グループホーム 入居者	グループホーム入居者から無作為抽出	郵送による配付・回収
⑫居宅系事業者	居宅系サービス提供事業者	インターネット経由 による配付・回収
⑬グループホーム	グループホーム	インターネット経由 による配付・回収
⑭施設系事業者	通所・入所施設、児童発達支援、放課後等デイサービス、短期入所施設、地域活動支援センター	インターネット経由 による配付・回収
⑮相談支援事業者	相談支援事業者	インターネット経由 による配付・回収

※①～⑨には、グループホーム入居者、施設入所者は含まれていません。

3 調査時期

令和元年 11 月から 12 月

4 回収状況

調査の種類	配布数	回収数	回収率	有効 回答数	有効 回答率
①身体障害児・者	3,629	1,526	42.1%	1,526	42.1%
②知的障害児・者	2,004	800	39.9%	798	39.7%
③精神障害者	2,541	965	38.0%	965	38.0%
④自立支援医療（精神）受給者	604	223	36.9%	221	36.6%
⑤特定医療費（指定難病）医療受給者	452	196	43.4%	196	43.4%
⑥高次脳機能障害者	100	47	47.0%	47	47.0%
⑦発達障害児・者	200	43	21.5%	43	21.5%
⑧特別支援学校通学者	200	91	45.5%	91	45.5%
⑨療育センター利用者	200	49	24.5%	49	24.5%
在宅系 小計	9,930	3,940	39.7%	3,936	39.6%
⑩施設入所者	205	80	39.0%	80	39.0%
⑪グループホーム入居者	504	189	37.5%	189	37.5%
居住系 小計	709	269	37.9%	269	37.9%
⑫居宅系事業者	202	38	18.8%	38	18.8%
⑬グループホーム	65	38	58.5%	38	58.5%
⑭施設系事業者	397	147	37.0%	147	37.0%
⑮相談支援事業者	141	51	36.2%	51	36.2%
事業者 小計	805	274	34.0%	274	34.0%
合計	11,444	4,483	39.2%	4,479	39.1%

5 報告書の見方

○調査名を次のように記載しています。

障害のある方の調査

	表記	調査対象者
在宅系	身体障害	身体障害児・者
	知的障害	知的障害児・者
	精神障害	精神障害者
	自立支援医療	自立支援医療（精神）受給者
	難病	特定医療費（指定難病）医療受給者
	高次脳機能	高次脳機能障害者
	発達障害	発達障害児・者
	特別支援学校	特別支援学校等通学者
	療育センター	療育センター利用者
居住系	施設入所者	施設入所者
	GH入居者	グループホーム入居者

事業者調査

	表記	調査対象者
居宅系事業所		居宅系サービス提供事業者
GH		グループホーム
施設系事業所		通所・入所施設、児童発達支援、放課後等デイサービス、短期入所施設、地域活動支援センター
相談支援事業所		相談支援事業者

○図表中の「n（回答者数）」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率（％）の母数をあらわしています。

○図表の単位は、特にことわりのない限り「％」（回答率）をあらわしています。

○回答率は小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがあります。

○回答者が2つ以上回答することができる質問（複数回答）の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。

○年齢別、等級別など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果の図・表については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致していません。

○本調査は、年齢の基準日を11月1日としており、特別支援学校対象者に18歳も含まれるため、障害児・者の年齢区分を「19歳未満」「19歳以上」としています。

○集計表のうち、第1位の項目（「無回答」を除く）に網掛けをしています。

○母数が少ない場合は、コメントを省略している場合があります。

○選択肢の一部を省略・編集している場合があります。

6 障害のある方の調査結果のまとめ

■ 調査対象者の概要

調査票の記入者は、「本人」が〔知的障害〕では20.9%、〔発達障害〕では37.2%、〔施設入所者〕では7.5%、〔GH入居者〕では33.3%となっています。また、「本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員など」が〔療育センター〕では91.8%、〔施設入所者〕では71.3%となっています。

■ 今後の生活の希望

〔在宅系〕ではいずれの区分も「自宅で親や親族などと生活したい」が最も高く、〔知的障害〕〔高次脳機能〕〔特別支援学校〕〔療育センター〕では70%以上となっています。

また、〔居住系〕については、〔施設入所者〕では「自宅で親や親族などと生活したい」が30.0%となっており、約3割が地域での生活を考えていることがうかがえます。〔GH入居者〕では「グループホームで生活したい」が73%ですが、「一人で地域で生活したい」「自宅で親や親族などと生活したい」も約3割となっています。

経年でみると、「自宅で親や親族などと生活したい」が、〔発達障害〕以外のすべてで3年前より5ポイント以上上昇しています。

■ 休日などの過ごし方の希望

18歳以上の方の休日などの過ごし方は、〔在宅系〕ではいずれも「家でくつろぐ」が最も高く、60%以上となっています。また、「買い物や食事に行く」が40%以上となっています。「近所の散歩」「趣味や学習活動」「友人・知人と会う」という希望も高くなっています。

18歳未満の方の休日などの過ごし方は、いずれも「家で遊ぶ」が最も高く、70%前後となっています。

■ 幼稚園・保育所・学校に望むこと

〔発達障害〕を除いて、「能力や障害の状態に応じた指導をしてほしい」が最も高く、〔自立支援医療〕では「障害特性の理解と支援」も最も高くなっています。

〔発達障害〕では「障害特性の理解と支援」が最も高くなっています。

■ 医療機関・健診等

かかりつけ医療機関が「ある」方は、全ての区分で7割を超えています。

1年間に健康診断を「受けた」方は、〔知的障害〕〔療育センター〕〔施設入所者〕〔GH入居者〕では70%を超えています。一方、〔高次脳機能〕では48.9%となっています。

また、1年間に健康診断を「受けていない」方のうち、健診を「受けたことがない」方は〔知的障害〕では52.9%、〔特別支援学校〕では71.9%、〔療育センター〕では53.8%となっています。

■ 日中活動の場

平日の日中の過ごし方は、〔身体障害〕〔自立支援医療〕〔難病〕では「企業などで働いている」が最も高くなっています。また、経年でみると、〔身体障害〕〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔難病〕では、「企業などで働いている」が3年前から上昇しています。一方、「特に何もしていない」が、〔身体障害〕〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔難病〕〔施設入所者〕で20%を超えており、〔施設入所者〕では32.5%となっています。

■ 収入・就労

主な収入は、〔知的障害〕を除いて、いずれも「年金・手当」が最も高く、〔施設入所者〕〔GH入居者〕では80%を超えています。また、「給料・報酬（一般企業など）」が、〔身体障害〕〔自立支援医療〕〔難病〕では30%台、〔精神障害〕では23.9%となっています。

就労による1か月の給料・報酬・事業収入・工賃が10万円以上の方は、〔身体障害〕では59.3%、〔精神障害〕では37.1%、〔知的障害〕では27.9%となっています。

■ 就労意向及び就労にあたり課題となること

今後（将来）、働きたいかについては、「企業などで働きたい」が〔身体障害〕〔知的障害〕〔精神障害〕〔高次脳機能〕では30%台、〔自立支援医療〕〔難病〕〔特別支援学校〕では40%台、〔発達障害〕では50%以上となっています。また、記入者別にみると、「本人」では〔施設入所者〕〔療育センター〕を除いて、いずれも「企業などで働きたい」が最も高くなっています。

働くにあたり、課題になっていることについては、〔知的障害〕〔発達障害〕では「適職がない（わからない）」が最も高く、〔精神障害〕〔自立支援医療〕では「働く自信がなかなか持てない」が最も高く、〔高次脳機能〕では「通勤が難しい」が最も高くなっています。また、〔GH入居者〕〔施設入所者〕では「介助が必要である」が最も高くなっています。

■ 将来の生活で心配なこと

〔身体障害〕〔難病〕では「自分で身のまわりのことができるかどうか」が、〔知的障害〕では「生活する住居または施設があるかどうか」が、〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔高次脳機能〕〔発達障害〕〔GH入居者〕では「生活費の負担ができるかどうか」が最も高くなっています。また、〔特別支援学校〕では「働く場所や適当な仕事があるかどうか」が、〔療育センター〕では「身のまわりの介助をしてくれる人がいるかどうか」が、〔施設入所者〕では「生活する住居または施設があるかどうか」が最も高くなっています。また、経年で見ると、3年前と大きな変化はありません。

■ 気軽に相談するために必要なこと

〔発達障害〕〔GH入居者〕以外のすべてで「どこで、どんな相談ができるか分かりやすくすること」が最も高く、約38～73%となっています。また、〔発達障害〕では「専門的な相談ができること」が62.8%、〔GH入居者〕では「身近なところで相談できること」が41.8%と最も高くなっています。

■ 福祉サービスの情報を知るために困ったこと

いずれも「どこで情報を得るかわからない」が最も高くなっています。また、「制度・サービスがわかりにくい」も高くなっています。

■ 外出やバリアフリーについて

外出しやすくなるために希望することは、〔身体障害〕〔難病〕〔高次脳機能〕では「建物の中のバリアフリー（トイレ・エレベーター・自動ドアの設置など）」が最も高く、〔知的障害〕〔発達障害〕〔特別支援学校〕では「市民の理解や協力」が最も高く、〔精神障害〕〔自立支援医療〕では「交通費の助成」が最も高くなっています。

■ 権利擁護について

障害者差別解消法の認知度については、〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔難病〕〔高次脳機能〕では「知らない」が70%を超えていますが、全区分合計の経年でみると、認知度が若干上昇しています。

■ 市に特に充実させてほしいサービス

〔身体障害〕〔難病〕〔高次脳機能〕では「専門的な医療やリハビリテーション」が最も高くなっています。また、〔知的障害〕〔発達障害〕〔GH入居者〕では「障害者用の市営住宅やグループホーム」が、〔精神障害〕〔自立支援医療〕では「就労のための相談や訓練」が最も高くなっています。

経年でみると、〔知的障害〕では、障害児関係や日中活動終了後のサービス、短期入所等の地域生活を支えるサービスが上昇しています。

〔高次脳機能〕では、日中活動終了後のサービス等の地域生活を支えるサービス、移動や地域で生活するための訓練に係るサービスが上昇しています。

〔療育センター〕では、「専門的な医療やリハビリテーション」が20ポイント以上上昇しています。また、障害児関係や日中活動終了後のサービス等の地域生活を支えるサービス、移動や外出に係るサービスが上昇しています。

〔施設入所者〕では、「専門的な医療やリハビリテーション」が25ポイント以上上昇しています。また、「入所施設サービス」等の施設系サービスが上昇しています。

■ 災害発生時に必要と思うこと

災害発生時に必要と思うことは、〔身体障害〕〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔難病〕〔高次脳機能〕〔発達障害〕〔特別支援学校〕では「災害の発生を知らせてほしい」が最も高くなっています。また、「避難所までの誘導や案内をしてほしい」が〔知的障害〕〔発達障害〕〔療育センター〕〔GH入居者〕で最も高くなっています。

■ ピアサポート活動について

ピアサポート活動について、〔自立支援医療〕〔特別支援学校〕〔療育センター〕では、「とても思う」と「少し思う」を合わせた『思う』が40%を超えています。

■ 地域の理解をすすめていくために、特に力を入れるべきことについて

〔高次脳機能〕〔特別支援学校〕〔施設入所者〕〔GH入居者〕では「学校や地域などで交流の機会を増やすこと」が、〔身体障害〕〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔発達障害〕では「障害や病気のある人の一般企業への就労の促進」が最も高くなっています。また、〔高次脳機能〕〔発達障害〕では「障害や病気についての正しい知識の普及啓発や講演会、疑似体験会の開催」も最も高くなっています。

また、経年で見ると、あまり大きな変化は見られませんが、〔療育センター〕では「学校や地域などでともに学び、ともに暮らすこと」が3年前も50%を超えており、高い水準が続いています。

■ 運動・スポーツをする上での課題

〔知的障害〕〔発達障害〕〔特別支援学校〕〔療育センター〕〔施設入所者〕〔GH入居者〕では「サポートをしてくれる人（指導者）がいない（不足している）」が、〔身体障害〕〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔難病〕〔高次脳機能〕では「健康・体力面で不安がある」が最も高くなっています。

7 事業者調査結果のまとめ

■ 運営主体

〔居宅系事業所〕では「営利法人」が、〔GH〕では「NPO法人」が、〔施設系事業所〕〔相談支援事業所〕では「社会福祉法人（民間）」が最も高くなっています。

■ 事業を展開する上での問題点・課題

いずれも、「職員の確保が困難」が最も高くなっています。また、〔相談支援事業所〕では「サービス単価が低い」も最も高くなっています。

■ 川崎市で不足していると感じるサービス

相談支援事業者からみて、川崎市で不足していると感じるサービスについては、「移動支援」が72.5%と最も高くなっています。

■ 職員の過不足状況及び不足している理由

職員の過不足については、〔居宅系事業所〕では「やや不足している」が36.8%、〔GH〕〔施設系事業所〕では「適当である」がそれぞれ36.8%・34.7%、〔相談支援事業所〕では「不足している」と「適当である」がいずれも31.4%と最も高くなっています。

不足している理由については、いずれも、「採用が困難である」が最も高くなっています。

■ 職員に受けさせたいと思う研修

〔居宅系事業所〕〔施設系事業所〕では「緊急時対応・事故対策」が、〔GH〕では「生活支援の技術・知識」が、〔相談支援事業所〕では「相談対応・カウンセリングの技術・知識」が最も高くなっています。

■ 職員の確保・育成のために今後必要な取組

いずれも、「待遇の改善（賃金手当の改善、助成金や補助金の充実等）」が最も高く、80%を超えています。

■ 災害発生時に協力可能なこと

いずれも、「利用者の安否確認とその情報提供」が最も高く、70%を超えています。

第2章

障害のある方の調査結果

1 調査票の記入者

問1 この調査票に記入していただくのはどなたですか。(○は1つ)

調査票の記入者は、〔身体障害〕〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔難病〕では「本人」が70%を超え、〔身体障害〕では74.8%となっています。一方、〔知的障害〕〔発達障害〕では「本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員など」が30%を超えています。

〔GH入居者〕では「本人」が33.3%、〔施設入所者〕では「本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員など」が71.3%となっています。

表 調査票の記入者 単位：上段（人）、下段（%）

項目	回答者数	本人の意見を聞いて、家族や介助者や施設職員など 本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員など				無回答
		本人	本人の意見を聞いて、家族や介助者や施設職員など	本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員など	本人の意見を聞いて、家族や介助者や施設職員など	
在宅系	身体障害	1,526 100.0	1,142 74.8	199 13.0	88 5.8	97 6.4
	知的障害	798 100.0	167 20.9	225 28.2	363 45.5	43 5.4
	精神障害	965 100.0	708 73.4	114 11.8	88 9.1	55 5.7
	自立支援医療	221 100.0	191 86.4	13 5.9	4 1.8	13 5.9
	難病	196 100.0	165 84.2	15 7.7	6 3.1	10 5.1
	高次脳機能	47 100.0	30 63.8	6 12.8	5 10.6	6 12.8
	発達障害	43 100.0	16 37.2	11 25.6	15 34.9	1 2.3
	特別支援学校	91 100.0	8 8.8	33 36.3	46 50.5	4 4.4
	療育センター	49 100.0	0 0.0	3 6.1	45 91.8	1 2.0
	居住系	施設入所者	80 100.0	6 7.5	13 16.3	57 71.3
GH入居者		189 100.0	63 33.3	51 27.0	64 33.9	11 5.8

2 基本属性

問2 年齢（令和元年11月1日現在の満年齢）はおいくつですか。（数字を記入）

〔身体障害〕〔精神障害〕〔自立支援医療〕〔高次脳機能〕では「50～64歳」が、〔知的障害〕では「6～18歳」が、〔難病〕では「65～74歳」が、〔発達障害〕では「19～29歳」が最も高くなっています。

また、〔特別支援学校〕では「16～18歳」が、〔療育センター〕では「5歳以下」が最も高く、〔施設入所者〕では「50～64歳」が、〔GH入居者〕では「30～39歳」が最も高くなっています。

表 年齢 単位：上段（人）、下段（%）

項目	回答者数	5歳以下	6歳～18歳	19歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～64歳	65歳～74歳	75歳～84歳	85歳以上	無回答	
在宅系	身体障害	1,526 100.0	22 1.4	47 3.1	33 2.2	82 5.4	176 11.5	571 37.4	187 12.3	223 14.6	121 7.9	64 4.2
	知的障害	798 100.0	68 8.5	282 35.3	197 24.7	99 12.4	87 10.9	40 5.0	13 1.6	3 0.4	0 0.0	9 1.1
	精神障害	965 100.0	1 0.1	26 2.7	79 8.2	135 14	229 23.7	307 31.8	94 9.7	50 5.2	14 1.5	30 3.1
	自立支援医療	221 100.0	0 0.0	5 2.3	24 10.9	46 20.8	59 26.7	61 27.6	17 7.7	5 2.3	0 0.0	4 1.8
	難病	196 100.0	0 0.0	0 0.0	4 2.0	18 9.2	29 14.8	57 29.1	62 31.6	22 11.2	0 0.0	4 2.0
	高次脳機能	47 100.0	0 0.0	0 0.0	1 2.1	6 12.8	9 19.1	21 44.7	6 12.8	0 0.0	0 0.0	4 8.5
	発達障害	43 100.0	0 0.0	6 14.0	19 44.2	11 25.6	3 7.0	2 4.7	1 2.3	0 0.0	0 0.0	1 2.3
居住系	施設入所者	80 100.0	0 0.0	0 0.0	5 6.3	11 13.8	21 26.3	27 33.8	6 7.5	7 8.8	0 0.0	3 3.8
	GH入居者	189 100.0	0 0.0	1 0.5	24 12.7	59 31.2	44 23.3	48 25.4	7 3.7	0 0.0	0 0.0	6 3.2

表 年齢

項目	回答者数	5歳以下	6歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳～18歳	19歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～64歳	65歳～74歳	75歳～84歳	85歳以上	無回答
在宅系	特別支援学校	91 100.0	0 0.0	15 16.5	18 19.8	25 27.5	26 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 7.7
	療育センター	49 100.0	37 75.5	8 16.3	4 8.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0